

天地

ネットワークテーブル 524号

天地シニアネットワーク 2021. 10. 16

TENTĪ TODAY			1
会員の広場			2
外国語	英会話の楽しみ (22) 医学用語について	伊那 闊歩	2
外国語	中国人から見た日本人の言語表現理(27) 論理的推論としての「はず」	愈 彭 年	6
私 論	北支那方面軍兼内蒙古蒙軍司令官 根本 博中將の軍人 道について(2)	佐川 雄一	9
旅行記	「再び、そうだ京都へ行こう」	池端 千一郎	12
回 顧	海外の思い出—ゴルフ場 (2) 南アフリカ	森永 吉彦	14
随 想	小金井市の散歩事情(2)	臺 一郎	15
回 顧	国立慕情(7) 一橋・籠城事件	津田 孚人	17
事務局			20

TENTĪ TODAY

天候が順調のせいでしょうか、今年は果物の出来が良く、豊富、季節の移り変わりを確かめながら、せっせと食べています。桃、ブドウ、梨、リンゴそしてミカン、イチゴ、と楽しみは続きますが、コロナ禍であっても季節が順調に推移してくれるのは大変ありがたいことです。

静かな秋を楽しみたいと思っていましたが、衆議院の選挙が始まり、様子が変わりました。世界も国内も、先行きが見通せない状況になっています。日本の政治が、あまりにも内向きなので不安です。優秀な若い世代は多くいます。頭脳流出は、日本の恥であり、悲劇です。国の将来に、しっかり向き合える政治家の出現が期待されます。

月刊誌・文芸春秋の11月号に、現財務次官の「このままでは国家財政は破綻する」という警告文(?)が掲載されてます。主旨は理解できますが、<誰を対象に言っているのか>と、(?)が付きます。

「国民のみなさんにも、事実を正直にお知らせし、率直な意見を申し上げ、注意を喚

起したい」とのことですが、国民全体への警告とすると、今更言われても・・・と言う気になります。

国民の側からすれば、「今まで何をしていたのですか？全面的に信用してきたのですが、間違っていたのでしょうか・・・」と、首を傾げます。霞が関は、国のため、国民のために中立な立場で、将来を考え、難題に対処する人たちが集まる場所と思っています。期待を裏切らないようお願いしたいものです。

会 員 の 広 場

英会話の楽しみ(22)

伊那 闊歩 (84歳)

22. 医学用語について

1. 新型コロナウイルス第5波がなんとか収まって、緊急事態宣言が解除され街に活気がもどってきた。日本の新聞のみならず、英字新聞にもこれまで何と多くのコロナ関連記事が出たことであろう。いい加減うんざりしておられると思うが、このへんで一度感染症にかんする用語や一般的な医学用語、医療政策についての用語などを整理しておくことは、今後のことを考えると無駄ではないと思われる。日常会話でも健康や医療について話題にすることは、かなりの頻度で多いのではないか。外国旅行中に体調不良に陥り、診察を受ける場合、医学用語をなにも知らなければ慌てることになる。

花粉症は hay fever, 花粉症にともなう症状たとえば nasal congestion(鼻づまり) や fatigue (倦怠感) などひっくるめて hay fever symptoms (花粉症症候群) という。風邪は cold, chill

She caught cold yesterday. (彼女は昨日風邪をひいた)

ここで cold には冠詞はつけないが、a bad cold のように形容詞が入れば冠詞は必要である。

凍てつく夜には星の影響(influence)を受けて influenza (インフルエンザ) にかかるといふ迷信がある。欧米ではインフルエンザを flu ということが多い。新型コロナウイルスは novel corona virus, その正式名称は COVID-19 (corona virus 2019) として報道されている:

Nasal congestion and rapid, repeated sneezing can also occur when people are infected with the coronavirus. (鼻づまりやたてつづけに出るくしゃみは、コロナの感染時にもみられる)

sneeze (くしゃみ)、be infected with~ (~に感染する) シャックリは hiccup (米英ではしゃっくりはヒーカップと聞こえる?)咳は cough.

痛みについては身体の痛みと心が痛むということがあるが、どちらの場合にも ache や hurt がよく使われる、たとえば

My legs ache from sitting. (長く座っていたので足が痛む) Her heart ached for the poor child. (その哀れな子供に彼女は心を痛めた)

一方、Where does it hurt? (どこが痛い?), This injection won't hurt much. (この注射はあまり痛くないですよ)

この場合 hurt のかわりにache とは言わないという。こういうことは理屈ではなく一つひとつ覚えていかなければならない。

身体の特定の場所の激しい痛みは pain。I have a pain. (体が痛むんです)。長くつづく鈍い痛みは ache。頭痛は head ache。このほかに痛みについては stab (刺すような痛み)、sting (蜂に刺されたときの痛み)、tingle (ひりひりうずく痛み)、pang (発作的な激痛) などたくさんある。

病名については、たとえば糖尿病は diabetes (最後に s がついているが、単数扱い)、糖尿病患者は diabetic。日本では肥満をメタボなどというが metabolic syndrome は代謝異常症候群、病的な肥満は obesity という。腎臓は kidney、腎臓病は kidney trouble、心臓病は heart trouble、心臓発作は heart attack。脳は brain で脳外科は the brain surgery 脳外科医は brain surgeon であるが、解剖学的には脳は cerebral と言い脳梗塞は cerebral infraction、脳出血は cerebral hemorrhage 脳血栓は cerebral thrombosis、脳震盪は concussion と言う。なお cerebrate (脳を働かせて考える)と「祝う」という意味の celebrate を混同しないよう注意されたい。

小児科はデパートメントオヴチルドレンなどと言わず the pediatrics department 小児科医は pediatrician という。このほか癌を cancer といい、胃癌は stomach cancer という。また腫瘍は tumor 脳腫瘍は brain tumor など、医学用語をここに網羅することはできないが、これらは一つひとつ覚えていかなければならない。

医学用語をギリシャ語やラテン語から取り入れたのがシチメンドくささの始まりだ。日本も医学用語が難しい漢字になっていることがあるが、オランダ語やドイツ語にならなくて幸いであった。

2.

以下、最近の英字新聞からコロナ関連の記事を拾い出し、医学用語などの使い方を見てみよう。

- Measures against the novel coronavirus were relaxed Monday in Tokyo and eight other prefectures as the state of emergency issued in those areas

ended Sunday. (新型コロナウイルスに対する政策が東京で月曜日緩和されその他8県に出されていた緊急事態(宣言)は日曜日に終結した)

Measures (政策、複数形にする) novel (形容詞としては「新しい種類の」という意味、名詞としては「小説、物語」という意味になる) the state of emergency (緊急事態であるが、多くの場合、緊急事態宣言と訳されている) issue (発布する) 規制を緩和するという時に relax、終結する時には end、規制を解除するときには lift を使う:

The ban on serving alcohol was partially lifted. (アルコール提供禁止については一部解除された)

○The state of emergency remains in place for Okinawa Prefecture. (沖縄県にたいする緊急事態宣言は引き続き有効である)

remain in place for～ (～にたいして有効である) in place of ～ は ～のかわりに という意味になる, in place だけなら「代わりに」という意味にならない。

○Since the beginning of this year, the Tokyo metropolitan area and the Kansai region have been placed under a state of emergency or priority measures. (年初以来、東京都市部と関西地域は緊急事態宣言下あるいは特別措置下におかれている) priority measures (特別措置)

○A surge in coronavirus cases since late March, considered to be a fourth wave of infections, was caused by an outbreak of the highly contagious Alpha variant first identified in Britain. (昨年3月以来コロナウイルス(症状)の大波は、伝染病の第4波と考えられているが、英国で伝染性の高いアルファ株が突発したことによってひきおこされた)

surge (大波、うねり) infections (名詞としては単数可算扱いで「伝染病」という意味になる) outbreak ([悪いことが]突発すること、発生) contagious (伝染する、伝染病を感染させる) contagion (接触感染、伝染病) Alpha variant (アルファ株)

○Many experts point to the possibility that Japan could be hit by a fifth wave of infections from late July to August. They are calling for extreme vigilance. (多くの専門家は日本が7月下旬から8月にかけて感染症の第5波に襲われる[であろう]可能性に[ひとびとの]注意を向けさせている。最大級の警戒を促している) point to (～に人々の注意を向けさせる) vigilance (警戒) call for (要求する)

○When the previous state of emergency ended on Feb. 28 in Osaka and other prefectures, there had been concerns about the spread of the British variant. (前回の緊急事態宣言が大阪やその他の県で2月28日に終結したときには、英

国株の蔓延についての懸念があった) concern (懸念、関心事、心配):

Global warming has recently become an international concern. (地球温暖化は今や国際的な関心事になっている)

- After the state of emergency was lifted, infections caused by this variant rapidly outnumbered those with the original form of the virus. (緊急事態宣言が解除されたあと、この株によって引き起こされた感染症はもともとあったウイルスによる感染症を数の上で急激に圧倒した) outnumber (～に数でまさる)
- In Osaka Prefecture, the daily count of new infections hit a record high of 1,260 on April 28, causing a serious shortage of hospital beds and overwhelming the medical system. (大阪府では毎日の新しい感染者数は4月28日に1,260人も高い記録に達し、病院のベッドに深刻な不足をひきおこし医療体制を苦しめた) shortage (不足) overwhelm (力で圧倒する、苦しめる)
- The percentage of positive cases involving the Indian variant has been on the rise. (インド株を含む陽性患者のパーセンテージは上昇している) be on the rise (上昇している)
- Even in Britain, where many people have been vaccinated, infections have surged again because of the Indian variant. Vaccinations are the key to curbing the spread of infections. Although inoculation have progressed, especially among the elderly, less than 10% of the population has received two doses of COVID-19 vaccine. (多くの国民がワクチン接種を終えている英国においてさえインド株によって再び患者が増えてきている。ワクチン接種は感染が広まるのを抑える鍵である。予防接種が特に年配の人たちにたいして進んでいるとはいえ、新型コロナ感染症のワクチンを2度接種したひとは人口の10%より少ない)
vaccinate (予防接種する) curb (抑制する) inoculation (予防接種) the elderly (年配者) dose (いやなこと1回分) COVID-19 (新型コロナ感染症)
- At present, the nation is far from herd immunity. (現在、国民が集団免疫を[獲得することからは]程とおい) herd immunity (集団免疫)
- Based on the situation in other countries, if 40-50% of the population is fully vaccinated with two shots, it might be effective in bringing the pandemic under control. (他の国々の状況に鑑みれば、人口の40-50%が完全に2度接種を受ければ、パンデミックをコントロールするのに効果的かもしれない)
注射は injection であるが、米国ではワクチン接種を shot という。
- Japan will vaccinate schoolchildren aged 12 to 15 against novel coronavirus

during the summer break, regulatory reform minister Taro Kono said Sunday.
(日本では新型コロナウイルスにたいするワクチンを夏休み の間に 12 歳から 15 歳の学童に接種すると河野太郎行政改革大臣が言った)

夏休みを summer break という vaccinate (ワクチンを接種する)regulatory reform minister (行政改革大臣)

○It is now known that age causes little difference in the efficacy or safety of the vaccine. (ワクチンの有効性あるいは安全性について今や年齢[の多寡]はほとんど差がないことが知られている)

Efficacy(薬などの効きめ、有効性 efficacy とも言う)

○If you rub your eyes and nose because you feel itchy, the risk of being infected with the coronavirus increases, so it is necessary to take care to avoid such behavior.

(かゆいからといって、目や鼻をこすると、コロナに感染する危険が増すので気をつけてほしい)

○ Although an on-site investigation into the origins of the novel coronavirus has finally realized, far from clarifying the actual situation, it resulted in almost repeating China's assertions

(新型コロナウイルスの発生源にかんする現地調査がようやく実現したが、実態解明にはほど遠く、中国側の主張をほぼなぞる結果となった)

on-site investigation(現地調査)

今回は The Japan News から多く引用させていただいた。

中国人から見た日本人の言語表現心理(27)

俞彭年(83歳)

論理的推論としての「はず」

「はず」は形式体言といわれる。文脈によって中国語訳が異なる。だから、『岩波日中辞典』の「はず」項目には訳語がなく、ただその例文と中国語訳がつけてあるだけだ。決まった訳語がないと、翻訳を通して理解する中国人には難しく感じられ、使いこなすことはもっと難しくなる。森田良行氏は『基礎日本語2』で「はず」を詳しく分析している。中国人にはありがたい分析だ。

次は文脈を少しずつ変えて中国語の訳の変化から「はず」の意味を見ていきたい。

「彼はMU519 便で長崎へ来るはずだ」は中国語訳で「他应该坐 M519 行搬来长崎的」となる。

「彼は MU519 便で長崎へ来ているはずだ」は中国語訳で「**他坐 MU519 航班来应该在长崎了**」となる。

「彼は MU519 便で長崎へくるはずだが、どうしたんだろう」は中国語訳で「**他应该做 519 航班来长期的, 怎么回事?**」となる。

「彼は MU519 便で長崎へ来るはずなのに」は中国語訳で「**他应该是坐 MU519 航班来长崎的呀, 真是**」となる。

「彼は MU519 便で長崎へ来るはずはない」は中国語訳「**他不会坐 MU519 航班长崎的**」となる。

「彼は MU519 便で長崎へは来ないはずだ」は中国語訳で「**按理他不坐 MU519 航班来长崎的**」となる。

「彼は MU519 便で長崎へ来ないはずはない」は中国語で「**他不会不坐 MU519 航班的**」か「**他一定坐 MU519 航班来长崎的**」となる。

いずれも予定や予想を表現する言い方だが、ニュアンスが微妙に違い、訳には工夫がいる。「はず」は客観的な状況から論理的に推論して物事は当然そうなることを表す。中国語の「**按道理应该……**」という言い方にあたる。客観的な状況からの論理的な推論であるため自信ある言い方となり、また、推論であるため断言できず不確実性を持った言い方となる。「……かもしれない」「……にちがいない」「……だろう」「……らしい」「……ようだ」「……そうだ(伝聞)」「……そうだ(様態)」など、同じく不確実性を持った言い方との違いは、客観的な状況からの論理的な推論と自信ある言い方にある。多く直感的、即物的、具体的な発想で話をする日本語の中では論理的な推論で話をするのだから珍しい。しかし、論理的根拠を示さずに話をする場合が多く、聞く相手にそれを任すということではまた大変日本語的だ。「察し」が前提にあることを知るべきだ。

整理すると次のような使い方になる。

時間を超えた事柄に使うと当然そうなるというメカニズムや、わけや道理であることを表す。「**使えば減るはずだ(按理用了会减少的)**」、「**そこに触れると電気がつくはずだよ(你接触一下那儿灯应该会亮的)**」、「**航空便は切手90円を張ればいいはずだよ(按理航空信邮票贴 90 日元就行了)**」、「**電話すれば配達してくれるはずだよ(打电话去, 应该会送来的)**」。「**あちらでは 10 月になると雪が降るはずだ(那里是到 10 月应该下雪了)**」。二つの事柄を「はず」で結びつけて、ひとつは客観的な状況、もう一つはその客観的な状況からの論理的推論であることを示す。

未知の事柄に使うと当然そうなるという予想や予定を表す。「いまなら研究室にいるはずです(现在的话应该在研究室的)」、「彼なら明日の午後上海から帰るはずですよ(他呢, 应该明天下午从上海回来的)」、「彼女にできるはずがないでしょう(她怎么会做的呢; 她不会做的)」、「彼が反対しないはずはないでしょう(他怎么会不反对呢; 他不会不反对; 他一定会反对的)」、「もう家についているはずだ(应该到家了的)」。

「傘はもっていったはずよ」の中国語は難しい。「傘是不会不带去的」。あるいは「傘是一定带去了的」ではどうか。「動詞の過去形+はず」の訳は工夫がいる。「さっきまでここにいたはずだ」は「到刚才为止一定是在这里的」と訳すと、「はず」は「一定」になって、不確実性が薄らいでしまう。しかし、「一定」を使わなければどう訳してよいらうか。

訳の問題はさておいて、ここではただ論理的推論だけが示されて客観的状况が示されておらず、客観的状况は「察し」に任される。

現実が予想や予定と合致しない場合に使うと予想や予定が外れたことになるため、「意外」「不審」という気持ちが生まれて、否定したり、言葉が切れてしまったり、疑問を発したりする。「こんなはずではない。きっと間違えたのだ(怎么会这样呢, 一定是搞错的)」、「そんなはずではなかった。きっと何かが起こったのだ(不会是那樣的, 一定是发生了什么事情)」、「昼にはきっと帰ってくるといったはずなのに(说是中午一定回来的呀, 真是)」、「もう返したはずですが、ないんですか(我确实是已经换了的, 怎么, 没有吗?)」、「おかしいな、来ているはずなのに(奇怪, 应该在的呀)」、「ここに置いておいたはずだが、落としたのかな(我确实是放在这里的, 是不是丢失了)」。現実から外れた予想や予定を示すだけであり、客観的状况は示されない。表現の重点はどうして外れたかに置かれる。

しりえた客観的状况を明かしてから論理的推論として当然そうなるのを納得するというメカニズムや道理を表す。「道理で」「なるほど」という気持ちが生まれる。中国語では「怪不得…; 难怪…」にあたる。「ひどい渋滞だったんだから、遅れるはずだよ(赛车那么厉害, 怪不得要迟到呢)」、「帰れないはずだよ。欠航なんだから(怪不得回不来, 停航了)」、「挨拶もしないんだから、怒るはずだ(连打招呼都不打, 难怪要生气呢)」、「えっ、今日は日曜日か、それじゃ、食堂は休むはずだ(啊, 今天是星期天, 难怪食堂不开呢)」、「歩いてくるんだって、それじゃ間に合わないはずだ(是走着来的, 难怪赶不上)」。ここでは知りえた客観的状况を原因として扱い、論理的

推論をその結果としているが、ただの原因と結果の関係ではないのが特徴だ。メカニズムや道理から発想した表現なのだ。

北支那方面軍兼内蒙古蒙軍司令官 根本 博中将の軍人道について(2)

2021年7月20日 佐川 雄一(84歳)

8月9日、ソ連の満州侵略が始まると、ソ連軍は占領地で邦人の殺害、女性の強姦、個人財産の略奪をいたるところで起こした。この情報は瞬時に関東軍、満州人の友人から根本の耳に入ってきた。それから数日後の8月15日、天皇陛下が玉音放送で、日本の敗戦を国民に伝えるとともに、日本軍は敵国との交戦を止め、武器を置き、日本軍の即時降伏を指示した。

このとき、根本はソ連軍が侵略してくれば内蒙古でも満州の悲劇が繰り返されると確信し、武器を置き、ソ連軍に降参する行為は採るべきでない、邦人の保護と将兵の生命尊厳こそ、地域司令官に課せられた最重要任務であると、即断即決した。

天皇の玉音放送を聞いた直後、根本は、配下の参謀・士官に対し、「私は上司の命令と国際法規にしたがって行動するが、わが部下、邦人の生命は、私の命を賭けて保護する覚悟である。駐蒙軍の指導を信頼し、その指示にしたがって行動されるよう切望する」と伝え、将兵の了解を得た。従い、地域内の邦人(約4万人)、そして配下2,500人の将兵が内蒙古の張家口から、鉄道で北京に向けて無事出発するまでは、ソ連軍の侵略には断固戦う決意を表明したのである。

時を同じくして大本営(東京)、支那派遣軍総司令官(南京)、北支那方面軍司令官(北京)から、「停戦をし武装解除せよ」とたび重なる厳命が届いたが、「もしその決心が国家の大方針に反するのであれば、直ちに本職を免ぜられたく至急何分の指示を待つ」と返電した。中国・満州での長い軍隊勤務(1925～45年)が幸いして、根本の敵情判断は大本営や南京に本拠を置く日本陸軍中国派遣総司令部とは明らかに異なるものであった。

根本の勇氣ある決断を知ったとき、第二次世界大戦中、外務省の訓令に反して杉原千畝氏が採った人道上の視点に基づく“勇氣ある行動”を思い出した。杉原氏は、当時(1940年7月～8月)、リトアニアの在カウナス日本国総領事館に勤務していたが、ナチス・ドイツの迫害によりポーランドなど欧州各地から逃れてきた難民の窮状に同情、外務省からの訓令に反して大量のビザ(通過査証)を発給し、多数の避難民を救出、国外脱出に導いた。その避難民の大多数がユダヤ人系であったことから、杉原氏は「東洋のシンドラ」とも呼ばれた。杉原氏は、戦後、ユダヤ人に対する大量のビザ発給について、「たいしたことをしたわけではない。当然のことを

ただけです」と語っているが、根本博中将も同じような心境にあったのではないだろうか。

8月9日以降、ソ連・外蒙軍との戦いは張家口の前線基地“丸一陣地”（張家口の北方およそ27キロにある東西約4キロ、南北約1.5キロの防衛陣地）で散発的に起こっていたが、日本軍が有利に戦いを進め、ソ連軍も一方的に日本軍を攻め込む状況にはなかった。他方、張家口では軍と公使との間で居留民の後送について意見の一致が見られず、後送が遅れ遅れになっていた。公使は、本省の許可が下りないと民間人を鉄道で北京に後送させることはできないという。公使も大東亜省も、現地に留まりえる居留民はなるべく多く現地に残し、やむを得ないものだけを国内に引き揚げさせる方針であった。このころの日本帝国陸軍・大東亜省・外務省には海外に居住する邦人の生命・安全を保護する人的・経済インフラと道義的責任体制が整備されていなかったのである。

他方、根本の下には「ソ連軍に直ちに降参せよ」と北京の北支那方面軍司令官（下村 定陸軍大将）から度々督促があった。さらに、14日朝には、張家口の前線基地“丸一陣地”に白旗を立てたソ連軍があらわれ「降伏を勧告する」といつてきた。15日にもあらわれ、「日本国政府は降伏した。ソ連・蒙古軍は日本軍の武装解除を要求する」と重ねていつてきたが、「日本政府からまだそうした命令を受けていない」として軍使を追い返した。

その後もソ連軍から武器を捨て、降参せよ、言うことを聞かなければ大挙して攻め入るぞ！と脅しがあった。他方、日本軍も白旗を立て士官・通訳がソ連軍の陣地に向かい、停戦交渉を続けながら居留民脱出の時間稼ぎをした。少しでも早く居留民の脱出を実現しなければならなかったが、根本司令官と公使・大東亜省の交渉が手間取り、邦人の張家口脱出が遅々として進まなかった。

丁度その時、根本宛に陸軍次官から、北支那方面軍司令官兼駐蒙軍司令官に昇格したとの通知が入り、直ちに北京に移動せよとの指示があった。北支那方面軍司令官：下村 定大将が陸軍大臣就任のため北京を離れることになり、その後任に根本博が選任されたのである。正にこのとき（8月20日）、無蓋貨車で張家口から北京への居留民全員の移送が決定した。

根本はその知らせを得て、前線基地：丸一陣地を訪れ、将兵に挨拶した。「最後まで諸子とともに行動するつもりであったが、（転勤で離れることになり）まことに残念である。---幸い、居留民の輸送は順調で進みつつある。大本營の速やかに武装解除せよ、従わなければ処罰するという命も聞かず、今日まで丸一陣地を死守したのは、張家口の居留民を安全に北京まで後送するためであった。自分はたとい逆

賊の汚名を着ても、4万人の同胞を救おうと決意したが、諸子はこの意をよく理解し、協力してくれた。厚くお礼申し上げる。―― 居留民の最後の列車が出発したという連絡が届いたら、武器弾薬はすべて陣地に残し、最小限の身の回り品を持って一刻も早く―― 後退してくれ。北京では北支那方面軍司令官として私・根本が、北支那方面軍を指揮して諸子を迎え入れる」

話を満州に戻す。1945年8月9日、ソ連軍の満州侵略が始まると、関東軍はかつての「独走」を棄てて、「遁走」に早変わりした。邦人を見捨てて軍上層部とその家族が一目散に日本に向けて逃亡を始めたのである。

私も、岩波ホールで、関東軍の家族が邦人家族を置き去りにして列車で逃避するニュース映画を見る機会があった。しかし、これが満州に傀儡政権を樹立した関東軍のあるべき姿であったのか！「満州は日本の生命線」、「満州は王道楽土」を売り物に人為的に日本が創った満州国は、もう一顧の値打ちのないものとして、見捨てられたのである。満州に王道楽土を求めて移住した日本人家族の屈辱を考えると胸が引き裂かれる思いがする。

ノモンハン事件(1939年)は満州・外蒙古の国境を巡る関東軍とソ連・蒙古軍の戦いであったが、この事件の終結後、モスクーに戻ったソ連軍の指揮官：ジューコフ中将がスターリンの問いに「日本軍の下士官兵は頑強で勇敢であり、青年将校は狂信的な頑強さで戦うが、高級将校は無能である」と答えている。ソ連軍の日本陸軍評価は早い段階から進んでいたことがわかる。知らぬは日本国民であったということになる。

それでは、敗戦が決まった後の内蒙古の将兵・鉄路職員はどのような行動をしたのだろうか。

華北交通 張家口の鉄路職員であるが、邦人全員の張家口脱出を確認した上で(8月)21日の午後1時、鉄路職員全員が鉄路局の庭に集合、最後の列車で北京に脱出した。

前線基地：丸一陣地で最後までソ連軍と対峙した将兵は、21日夜、最小限の武器を携行し、丸一陣地を離れ、徒歩で北京に向かい、27日、北京の手前にある歴史に名高い青龍橋の城内に到着、駐屯していた日本軍に迎えられた。張家口駅にあった客車・貨車はすべて邦人・鉄路職員・将兵の後送に使われたので、丸一陣地を最後まで防衛した兵士に残された逃避の手段は徒歩になったのである。

他方、根本は、日本軍政の下で施政を行っていた蒙疆政府の首脳者たち(政府首席の徳王、蒙疆軍司令官の李守信、他)を司令部に呼び、「日本は力およばずついに負けました。―― しかし永い間、日本軍に協力して下さったあなたたちが、われわ

れと同じ境遇に落ちるのは、なんとしても阻止しなければならんと思っています。あなたたちはご自身にとって最善と思われる道をお進みください」と率直に語った。20日になると北京に行きたいと申し出たため、ただちに彼らを北京に護送した。このようなセンシティブな問題を迅速に処理できた背景には、国府軍と間に築き上げてきた深い相互信頼関係が指摘される。

それから暫く経った1945年10月10日、北京の紫禁城内で日本軍の降伏式が行われ、北支那方面司令官：根本博が降伏文書に調印した。1937年から続いた日中戦争が茲に終結した。

降伏文書の調印前から華北地区の接收について国民党側の司令官との間で折衝が続いていたが、ちょうどこの時、蒋介石首席と何応欽上級大将（連合軍中国戦区陸軍総司令官）が北京を訪れ、華北の終戦処理を、一つの模範例として、全中国におよぼすべき話し合いが進められ、それが実行に移されたのである。このことが中国に残されていた日本軍人の生命と本国への帰還を円滑に進める契機になった。邦人・軍人の帰国であるが、「アメリカが輸送船180隻を貸与することになり、中国（華北、華中、華南）に残されていた軍人と在留邦人の日本送還は1946年末までに終了した」根本は、華北から帰還する最後の1兵にいたるまで、その帰国を見とどけた。「根本が北京を発った時、特別列車が仕立てられ、最高司令官の礼をもって国民政府軍に見送られた。国民政府側の根本に対する敬意の大きさが窺えるエピソードである。」根本は最後の復員船で佐世保に上陸、1946年8月21日、小田急線鶴川駅に降り立ち自宅に戻った。

しかし、すべてが上手く進んだわけではない。根本が、国民党軍傳作義司令官との間で合意していた「駐蒙軍が保持していた武器の国民党軍への引渡し」の約束は果たされなかった。前線基地：丸一陣地を死守していた駐蒙軍は、張家口から邦人が北京に向けて出発した情報を得て、退却したが、その間、国民党軍はタイムリーに張家口に到着できず、基地に残した武器は、ソ連軍の手に渡り、その後八路軍（共産軍）に渡ってしまった。

再び、そうだ、京都に行こう！

池端千一郎（74歳）

またまた京都に行ってしまった。前回行ったのは七月の上旬だから、丁度3ヶ月ぶりとなる。菅政権による怒涛のようなワクチン接種活動の成果なのか、コロナの感染者はここにきて急速に減り始めた。都内の一日当たりの新たな感染者は100人以下、日によっては50人を切るところまで減少した。

こうした状況から政府も東京などに出していた緊急事態宣言を9月いっぱい解除した。待ってました！とばかりに『そうだ京都に行こう』を決行した。

10月11日の月曜日、東京駅発12時30分頃の「のぞみ号」で京都に向かった。僕が乗ったのは12号車で、新横浜を発車した段階で座席のほぼ6割近くが埋まっていた。ちなみに今年の7月に行った時にはどの車両も数人しか乗っていなかった。14時半頃には京都駅に到着し、ホームに降りると10月とは思えないような蒸し暑さに包まれた。その日僕はサマージャケットを羽織り帽子を被っていたが、額からはたちまち汗が吹き出てきた。

京都駅からは地下鉄に乗りホテルのある四条駅にむかう。車内やホームにいる人達を見るとほとんどの人が真夏のファッションだった。四条駅で降りて地上に出た。ホテルを探して多分こちらだろうと歩いたが一向に見つからない。しょうがないとホテルに電話をして場所や駅からの行き方を聞いたが今一分かりにくい。日本語のイントネーションもおかしい。

かれこれ40分位探し回ってようやくホテルを見つけた。推察した通りフロントの担当者は日本人ではなかった。インドかパキスタンかといった感じだ。彼の日本語はイントネーションこそ少し変だったが日本語としてはおかしくなく、対応も丁寧であった。

いずれ海外からのインバウンド客が回復すると、彼の英語力は戦力となるだろう。チェックインの手続きを終え、部屋に入った僕は、汗だくの服を脱ぎ、速攻でシャワーを浴びた。風呂から出たらクーラーを全開にして、冷たい飲料をグビグビと飲み干して火照りを冷ました。

小一時間ほど休んでから、夕食のこともあるので近くの錦市場に行く事にした。

時間は夕方の17時を少し回った頃だったが、行ってみて驚いた。人がほとんどい



ないし、120店位ある店の多くがシャッターを閉めている。月曜日なので定休日でもない。まるで過疎地のシャッター商店街みたいなのだ。

翌日12日の16時に再び行ってみたら、前日より人もいたし、店も開いていたが、およそ賑わいは感じなかった。市場の中ほどにあった漬物屋のオバちゃんに聞いてみたら、ちょっと悲しそうな顔をして「夕方5時過ぎでお客がいなければ、どの店も閉めてしまいます。お客はなかなか以前のようにもどりまへん」と言っていた。

京都のような世界的な観光地となると、海外からのインバウンド客がもどらないことには地元経済も活気がでないのだろう。となると京都がかつての賑わいを取り戻すには、まだあと一年や二年はかかるのかもしれない。

海外の思い出—ゴルフ場 色々 (2)

2021年8月27日 森永 善彦

南アフリカ・クルーガーパーク(Kruger National Park)でのゴルフ

ロンドンに駐在している時に、会議で南アフリカヨハネスブルグに行きました。2005、6年頃の話です。会議は金曜日の午前中に終わったので、週末かの有名なクルーガーパークに行く事になりました。金曜日の午後、ヨハネスブルグから小さなプロペラ機でクルーガーパークの近くの空港に向かいました。総勢、現地のスタッフやトヨタ自動車関係者で7—8名です。

クルーガーパークの近くのコテージ形式(サファリ形式)のホテルが宿泊所です。敷地の中央にフロント、レストランと売店がある中央棟があり、泊まるのはその周りにある小さなコテージで、2—3人ずつ分かれて入りました。広い敷地なので、食事をする中央棟までは歩いて数分の距離がありました。

ホテルの敷地の周りは高さ3メートル位で最上部に鉄条網が張り巡らされた頑丈そうな金網で囲まれています。これは泥棒除けではなく猛獣除けです。夜間近くのクルーガーパークから出没する猛獣が入ってこないようにしてあるそうです。もっとも金網が有っても偶に猛獣が中に入ってくる事が有るそうで、朝敷地内をジョギングしていたドイツ人の男性が黒豹に襲われ死亡した事も有ったそうです。

そんな話を聞いた後に、夜暗闇の中を夕食の為、コテージから中央棟に歩いて行くのは相当勇気が要りました。

次の日はクルーガーパークのサファリ観光です。ご存じない方の為に少し紹介しておきますと、クルーガーパークはヨハネスブルグ北東 350 キロ—400 キロの所にあります。大きさは南北 350 キロ、東西60キロと広大な自然公園です。



クルーガーパークは、南アフリカの隣国のジンバブエのゴナレゾウ国立公園、同じく隣国のモザンビークのリンポポ自然保護区と隣接していて、この3つの公園を合わせて大リンポポ越境公園と言う越境保護区の名で呼ばれる事もあるそうです。動物達は人間の定めた国境に関係なく、3つの公園内を自由に行き来しているそうです。

(クルーガー国立公園全景/左側の縦長の部分、右側の色の薄い部分はモザンビークの公園です)

小金井市の散歩事情 (2)

臺 一郎《74歳》

小金井市の南部を東西に走る準幹線道路が連雀通りであることは前回触れた。この道路の南側にはすぐに国分寺崖線＝“はけ”の崖があり、崖下には湧き水や地下水の豊富な平地が広がっている。この平地にはこれも前回は紹介したように西から東に野川という中小河川が蛇行しながら流れている。この野川沿いや、ハケの崖下から湧いた地下水が流れる小川沿いには、なかなか魅力的な遊歩道や散歩道がいくつかある。

さて、良い散歩道や遊歩道のための望ましい条件の一つ、必須条件ではないのだが、には人が歩く道に沿って、あるいはすぐ脇に水のきれいな河川や水路が存在することである。流れの中で魚が泳いでいるのが時折見えたり、水鳥が戯れていたたりすればなおのこと良い。京都の銀閣寺近くから南禅寺近くまで続く有名な「哲学の小径」などは、まさにこうした条件に合致する遊歩道である。

川や水路は暗渠部分以外上空が開けている。だから見通しも風通しも良い。また水の流れる音は清涼感があってそれが聞こえるだけでなんとなく気分が良くなり心が落ち着く。しかも河川を管理するのは多くの場合、市町村や都道府県なので、それらの自治体の裁量で川沿いに遊歩道や桜並木などを整備して地域住民の憩いの空間とする場合が多い。

さて“はけ”の崖の上を東西に走る連雀通りの北側に位置し、小金井市の北部を代表する散歩道や遊歩道と言え、なんとと言っても「玉川上水緑道」は外せない。この玉川上水は小金井市内だと中央線から 1Km ちよつと北側を西から東に流れていて、その両岸に歩行者用の道が整備されている。水路部分を含めて、保守管理の主体は東京都だから整備や環境保全に抜かりはない。

玉川上水は 17 世紀半ばの 1653 年に徳川幕府が、江戸市中の人口が増えて飲み水などの水需要が急増したために、特に江戸城の西側地域向けの上水を供給する水路として整備した。すなわち多摩川の中流域に位置する現在の羽村市付近で取水し、43 キロほど先の現在の新宿区四谷大城戸まで開削工事により水路を作り、一年後の 1654 年に完成させ通水したのである。

一旦ルートを決めて、少しばかり開削工事をして水を流してみたら、水路底部の水はけが良すぎて流した水が地下に染みこんで消えてしまったために、やむを得ず工事を中止して別のルートを探したなどの苦労もあったようだが、それでも着工の翌年にはできあがるという異例の早さで完成している。かなりの突貫工事だったと言えよう。

当然だが電気もポンプもない時代のことだ。水はもっぱら自然勾配で流すしかなかった。そのため玉川上水では、取水地点の羽村から終点の四谷大城戸までの 43 キロ、標高差 90m の間を、ほぼ 100m につき 21cm 下がる勾配を維持することで水を流したのである。相当高度な測量技術と土木技術が必要であったに違いない。

また、この水路は江戸市民が飲む水を供給するための上水用の水路だ。よってこの上水から分水して周辺の集落や農地に水を供給することは許されても、交錯する途中の自然河川や他の水路からの水が上水に混ざり込むことは決してないように水路のルートや構造に工夫や配慮がなされたというから驚きだ。

ところで玉川上水に沿った側道は水路管理のために完成時からあったと推察されるが、流域の住民や江戸市民が散策を楽しむ遊歩道的な道として整備され利用されたのは、18 世紀半ばに徳川吉宗が 8 代将軍となり、上水の土手に多くの桜の木を植えるよう命じてからである。

何故そのようなことを命じたかと言え、一つは植樹した桜の木が土手に根を張れば水路の崩落が防げるだろうとの狙いや、水路に落ちる桜の花びらが水の毒を

消すなどの理由からであったと言われているが、そのほかに、桜を植えることで辺り一帯が花見の名所となり、春には花見客で賑わうことを目論んだとも言われている。

このときの桜の植林は、現在の玉川上水小金井橋付近を中心に両岸とも上下 6 キロほどで先ずは行われ、その後も上水に沿って桜の植林が断続的に行われた結果、上水沿いの一帯は江戸を代表する桜の名所となった。なお現在小金井市の花見の中心はすぐ近くの小金井公園へと移ったが、それでも上水の両岸にはまだ多くの桜の木が残っており、春になって花が咲き誇る頃には多くの市民や市外からの花見客が満開の桜を楽しみながら歩いている。

また、桜の季節以外でも上水沿いの遊歩道は緑が多く、歩いていて気持ちが良い。しかもこの緑道は上水沿いに国分寺市や小平市、或いは逆に三鷹市や武蔵野市まで続いていることから、四季を通じていつも誰かがウォーキングやハイキングやジョギング等を楽しんでいる。

以上の他にも中央線の北側には、小金井市が管理する遊歩道がいくつかある。それらの中で僕のお気に入りには、都立小金井公園の南側フェンスに沿って東西方向に 400m ほど続く自然豊かな桜町遊歩道であり、もう一つは本町 4 丁目の住宅地のど真ん中をほぼ 500m に渡って突き通し、途中から道の感じががらりと変わる遊歩道北 2 号線である。

それらについては次回に紹介したい。

国立慕情 (7)

津田孚人

(84歳)

NHKの大河ドラマ、「青天に衝く」の主人公が渋沢栄一、母校の「申西事件」が渋沢栄一と関係が深いので、「国立慕情」で「申西事件」を追ってきました。

「籠城事件」は、昭和 6 年、間が空きますが、この事件も渋沢栄一の影響が大きく、また、関東大震災（大正 12 年）のあと、本科、専門部は国立に移転しているので、追ってみることにしました。「籠城事件」の籠城は、神田一橋の旧校舎で行われましたが、堤康次郎（箱根土地社長、西武グループ創設者）を会長とする国立町民が、「予科、専門部廃止は、国立町の死活問題、廃止案の撤回を希望する」と大会を開いて決議、2000人が署名した決議文を、大蔵・文部の両省に代表者が持参提出することにした、とのことですから、やはり国立も関係していました。

また神田一ツ橋から神保町で学生がデモをし官憲と衝突した際には、沿道の方から、「学生ががんばれ」の声援がしきりに飛んだそうです。また宿舎への差

し入れもあったそうですから、学生のデモが一方的なものではなく、一般にも理解されるものであったと言えます。

日露戦争勝利後、日本国内が高揚していた時代に起きた「申酉事件」、第一次世界大戦後の放漫財政、農村の疲弊、金融恐慌、政治テロの多発、そして関東大震災、等々日本国内全体が精神的に落ち込んでいた時代に起きた「籠城事件」、事件の主題は同じですが、歴史的な背景が大きく変わっていましたので、様相は全く違っていました。

「籠城事件」では、主役に学生側だけでなく、教授側、如水会、も加わり、さらに一般人も脇役で参加して、政府、行政に抗議しました。

本題に入ります。

昭和6年、第二次若槻内閣は、大緊縮財政を断行する方針をたて、大蔵省は文部省へも極度の経費節約を示唆した。文部省は、部局の整理統合に、単科大学の予科・専門部の整理統合を含め、極秘裏に整理構想の策定を始めた。

「日本には高等学校があるから大学予科は不必要である。また高等専門学校があるから大学付属専門部は不必要である。よって、北海道帝国大学および東京商科大学の予科と専門部とを将来において廃止する」との結論を得て、閣議決定を待つばかりだった。

たまたま、本学昭和4年卒の東京日日新聞社・文部省詰記者であった佐倉潤吾が、この構想を耳にし、母校の佐野善作学長に伝えた。(昭和6年9月30日)。

10月1日、この「予科、専門部廃止案」が東京日日新聞をはじめとして各紙に大々的に報道され、同時に佐野学長は、午後、文部省、大蔵省を訪ねた。大臣不在のため意を伝えられなかったが、国立へ教授全員を集めて、「予科、専門部廃止絶対反対」の3科連合の決議をした。

そして、大学の本部を神田一ツ橋の出張所に移し、学期試験を無期延期として、27人の委員を決め、担当も決めた。

10月2日、専門部の学生は理事会を開き、学生代表は文部次官に面接陳情した。如水会は、夕方臨時常務理事会を招集、数人の教授も同席、各方面の情報を集め、対策を協議した。

当時、大学は、関東大震災による壊滅的な被害で授業は分散して行っていた。本科と専門部は、震災直後、焼け跡に急遽バラック校舎を建てて授業を再開、その後、教授会で国立への移転を、決定して一部移転が始まっていた。

専門部は国立に専門部の本館が落成したので、昭和2年4月国立へ移転。

本科は、校舎・図書館・講堂の落成を見て、昭和5年9月に国立への移転を完了。

予科は、大正12年10月から翌13年までの6か月間、中野の旧東京高等学校の

校舎の一部を借用して、急場しのぎの授業を行い、その間に石神井に購入してあった運動場に仮設のバラック校舎を建て、大正13年4月から昭和8年9月(小平への移転)までの9年半、授業を行った。

以上のように昭和6年、籠城事件勃発当時、**本科**、**専門部**は、国立、**予科**は石神井と分散していた。

10月3日、学生たちは早朝、国立、石神井へ登校、**予科**(石神井)では、学生大会を開催、冒頭、教授が経過を説明し、「学校教育が大蔵、文部両省の単なる赤字補填に利用されるのは絶対反対」、「我々教師も頑張るから諸君も頑張れ」とアジ演説を行った。次いで学生有志が登壇、「光輝ある歴史を有し、堅実なる発達をとげつつある東京商科大学予科の廃止に絶対反対」の決議をした。そののち理事会より「午後3時、神田一ツ橋旧校舎へ集合」の指令があり、参加することにした。

国立の**専門部**は、午前8時半から、専門部校舎で学生大会を開催、「我々は、行政整理原案中における本学専門部廃止案に絶対反対、撤回を期す」との決議をした。**商業教員養成所**でも、専門部と同様の決議をし、専門部と行動を共にすることに決めた。専門部学生は、午後になって「直ちに大蔵省へデモを敢行しろ」との声があがり、専門部、教員養成所学生700人が単独で大蔵省に向かった。大蔵省は驚き、次官が対応、学生は廃止案には絶対反対と訴えた。

本科(国立)は、午前11時、学生大会を開催、「吾人は我が予科および専門部の廃止は本学の存立に関するものなるをもって、廃止案に絶対反対する」と決議、午後3時に神田一ツ橋へ集まることにした。

一方**如水会**側も、理事長に教授が同道、滝野川の**渋沢栄一子爵**邸を訪問、応援を求めた。**渋沢子爵**から、「これは教育の実情を知らぬ暴挙である。今私は病気だから自分自身各方面に運動することが出来ないので、自分の代理として中島久万吉男爵(明治30年高商卒)をたてて、政府当局その他の各要路に対して運動させる」との助言を得た。

午後に理事長他が中島男爵を訪問、渋沢子爵の意を伝え、快諾いただいた。(渋沢子爵は、この40日後の11月11日、薨去)

この事件に対する**渋沢子爵**の意見が明らかになったことは、その後の**如水会**の運動に大きな影響を及ぼした。如水会員が迷うことなく、反対運動に邁進できる絶大な精神的な支柱となったのである。

午後3時、国立、石神井の学生も神田一ツ橋の旧校舎跡地へ集まり、学生大会を開催、長谷川徳次(本科3年)を議長に、副議長を予科、専門部から一名

ずつ選び、初めての3科合同学生大会の開催がなった。「予科、専門部廃止に反対」の決議を行い、団結が叫ばれた。

さらに、この大会に出席した教授たちが学生にはっぱをかけた。予科教授は「画一的な教育打破と官僚主義排撃」、専門部教授は、「一橋存亡の危機に際会して諸君は、合法と非合法との境目をスレスレのところ、全力をあげて戦え」、そして某教授は、「皆頑張って、俺についてこい」と、大声で学生を激励した。

一方、卒業生も一ツ橋へ集合、ニュースをスクープした東京日日新聞の佐倉記者はもちろん、他の新聞記者、法曹界、経済界の諸先輩が多く集まり

「如水会青年同志会」を結成して、学生を側面から叱咤激励することになった。

以上のように、全学の教授、学生、先輩が挙って立ち上がり、本学の特異な本質を抹消しようとする暴案に対決する全一橋の統一的な反撃の火蓋が切って落とされた（依光良馨・申酉籠城事件史）

午後5時半、井上蔵相に大会の決議書をもって陳情代表団が出かけたことを知って、学生たちは、自分たちも一緒に行き、熱意を伝えたいと、隊伍を組んで校門を出たところで、警戒をしていた錦町署、西神田署の数十人の警察官と小競り合いが発生、13人の検束者が出た。学生たちは、一旦校内に引きあげ解散するが、帰宅する様子をして校門出て数人でタクシーに乗り蔵相宅へ続々乗りつけた。警備の麴町警察署は大慌て、動員した20数人の警官で人垣をつくり学生を阻止するが叶わず、陳情学生代表12人が井上蔵相と会見することになった。

陳情代表の学生たちは、出発前に血の気の多い若手教授たちに、「井上蔵相にあつたら構うことはない。いきなり思い切ってピンタを張れ、それくらいのことをしないと、この難問題は解決しない。退学を怖がっていたら片付かんぞ。諸君の身分保障はわれわれ教授団が絶対に責任をもって引き受ける。安心して思い切りやってこい」とハッパをかけられていた。

(つづく)

事務局

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電 話・FAX 03-3819-7651